

富山の経済情報誌

『きらり』は、人を主テーマにした地域の経済情報誌です。巻頭トップインタビューでは、「規模は小さくても卓越した手腕を発揮している経営者」「宝石の原石のように今は無名でも豊かな将来性を感じさせる若手」「知る人ぞ知る熟練の技を有する名人」など、「きらり」と輝いている人に登場してもらい、その人となりを紹介します。



■巻頭トップインタビュー・・・1

DO IT NOW —できることからすぐ実行

エクサ社長 始良 邦一氏

きらり

2006

7/21

- ほっとライン・・・・・・・・4
- 新技術・新商品・・・・・・・・5
- この人に訊く・・・・・・・・6
 - 時の言葉・・・・・・・・7
 - 潮流底流・・・・・・・・8
 - 富山往来・・・・・・・・10
- 週間行事予定・・・・・・・・11
- 倒産情報・・・・・・・・12

DO IT NOW - できることからすぐ実行

有限会社エクサ代表取締役社長 始良 邦一氏

庭の設計・施工を手がけるエクサ（富山市）は、全国の先進的なガーデンデザイナーのグループ「GARDEN21」に所属し、独自のガーデンづくりを提案している。

ガーデンとは建物の外部空間だが、外装だけではなく造園や景観までも含めた広い意味を指す。同社では、犬などのペットを家族の一員と捉え、犬との生活を楽しまたいという人が近年増えていることから、飼い主や家族と犬がともに快適に過ごせる「ドッグガーデン」などの庭づくりを考案し、環境に配慮した素材を用いて施工している。

会社の敷地内には、犬と飼い主と一緒に遊ぶことのできる広場「ドックラン」を建設し、県内外の愛犬家とコミュニケーションを通じて受注の掘り起こしも図っている。今春から本格的に提案したが、家族やペットとのふれあいの時間を大切にする人が増えていることもあり、受注は好調だという。

また始良社長は、経営者の資質向上やビジネスモデルの開発などを目的とする経営者グループ「景空間」の会長も務め、地域におけ



る環境活動のリーダーとしての顔も持つ。今回は、仕事を通して地域貢献に意欲を燃やす始良社長に話を伺った。

犬と人が過ごす 犬庭生活を提案

本誌 “犬と人間が快適に過ごせる共同空間は庭が最適” という思いから、「ドッグガーデン」による庭づくりを強化されているそう

ですね。

始良社長 もともと私自身が犬好きだったのと、全国でここしかないというものを作りたいという思いがありました。まず「ドッグガーデン」を自分が先駆的に作って、ホームページなどで皆さんがそれを見ていただければ、「犬庭生活」（「ドッグガーデン」の提案）に興味を持ってもらえるだろうと思ったんです。

その場で

営業できる強み

本誌 全面芝生張りの「ドックラン」(面積253m²)を自社敷地に建設し、愛犬家の皆さんに喜ばれているとか。

始良社長 ペットショップが「ドックラン」を設けて運営している所はありますが、当社のようなガーデンデザイン業では全国で初めてです。犬にとって芝生のほうが気持ちがいいとか、メンテナンスはこうすればよいなどのノウハウは、「ドックラン」の作り手側であるわれわれが1番よく解っています。

「ドックラン」を設けることで、お客様が見て触って体験することができますし、何よりも先方が私たちガーデンデザイナーのところへ直接来て下さる機会が生まれるわけです。週末は、県内外から愛犬家のお客様がかなりお見えになります。住まいと庭をつくるプロである私たちは、住まいの中と外の協調空間づくりの提案ができますから、その場で営業ができるという強みがありますね。

本誌 企業理念に「ガーデンを通じた地球環境づくり」を据えています。具体的にどのようなものですか。

始良社長 地球温暖化の進行を食い止めるためにはCO₂の削減が肝要ですが、そのために樹木を植え

たり、地表の日陰部分を増やして熱を冷ましたりすることが重要であるとすれば、私たちガーデンデザイナーが最も近い位置にいる職業ではないかと思えます。

私はこの地域(大広田地区)の環境と共生を考える「大広田環境づくり協議会」のリーダーを務め、富山市の市町村合併による海側(大広田)と山側(八尾)地区の共生を図るための国のモデル事業を進めています。

その事業に関連して、私が作った「景倶楽部富山」という団体では、中小零細の異業種の企業経営者(約40社)が勉強会を開いて、職人の知的財産の共有などを行っているのですが、そういったネットワークを擁する「景倶楽部富山」と、「大広田環境づくり協議会」を互いにコラボレーションさせながら、地域のエコ環境づくりを図っています。

「ドラえもん」の テーマパークづくり

本誌 地域への貢献について、思いをお聞かせ下さい。

始良社長 私は自分の夢を100項目まとめ、100の夢の中で1項目を達成したら、また1つ加えるという形で毎回書いています。つまらない小さなものから大きなものまでいろいろあります。

その夢の中で将来的に考えてい

るのは、先ほどもお話しした地域環境や地域活性化の事業のことで、私は100歳までの事業プランを立てているんですよ(笑)。

100歳までのプランの中では、70歳ぐらいでできると想定しているのですが、「ドラえもん」のテーマパークを作るビジョンを描いています。規模は東京ディズニーランド以上のもので…。

それを作るために、今の1つ1つの活動があるといってもよく、仕事はそのステップの1つという認識です。その「ドラえもん」の構想のために、石川県知事とも懇談しています。

とにかく、私はやりたいことがいっぱいあるので、起業や新事業進出、地域づくりを行う人を富山県が支援する「とやま起業未来塾」(中尾哲雄塾長)に入りました。県の経済界を担っている財界の方々が塾を支えていらっしゃいます。

今は、田んぼを畑に変えて会員制の市民農園を作るという計画を進めています。近年は地域コミュニティの低下からいろんな問題が発生して、不審者対策などの防犯活動などが課題となっています。田んぼづくりを起爆剤にコミュニティが深まり、健康維持も図れます。高齢者が健康でいきいきしながら生活すれば、医療費の軽減にもつながります。また世代間の

コミュニティーツールの1つとして、3世代交流を促進する施設づくりを次年度の目標にしています。

究極の

プラス思考人間

本誌 起業されてから11年になるそうですが、これまで社長業に就いて最も苦しかった経験を挙げるとすれば。

始良社長 私は過去を振り返らないタイプなので、忘れちゃうんですね（笑）。そんなのは星の数ほどありますよね。

辛いことというのは、自分が乗り越えられる扉だと思うんですよ。次第に扉が高くなってくるわけで、私はそれにチャレンジする。俺だったら乗り越えられるから、試練として扉が与えられているのかなと思っています。ポジティブに考えていないとね。周りからは究極のプラス思考の人間だとよく言われます（笑）。

本誌 座右の銘は？

始良社長 横文字ですが「DO IT NOW」。「できることからすぐ実行」です。それと「意識が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば成果が変わる」です。要するに自分を変えていく、常に自分の意識改革を行うということを信条にしています。

本誌 尊敬する人や影響を受けた

人は？

始良社長 大勢いて、恩師だらけです（笑）。私が起業したのは28歳の頃ですから、周りから学ぶしかなかったですね。起業時の初心を忘れないようにするためには、地に生えた雑草のように下から物を見ていたほうが分かりやすいと思っています。

私は地区の学校のPTA会長も務めていますが、学校の生徒さんなど、子供からも学ぶことは一杯ありますよ。PTA会長に関しては、仕事とは違うフィールドですけど、無報酬の組織という環境を与えてもらっていることは、自分にとって随分勉強になっていると思います。（終わり）

■あいら・くにはる■エクサ（富山市海岸通22、資本金300万円、

年商1億5,000万円）の代表取締役社長。昭和42年3月28日、富山市不二越町に生まれる。昭和62年に富山美術工芸専門学校建築課卒業後、父が経営する鉄工所を経て、平成6年4月にエクサを創業して独立し、代表取締役社長に就任して現在に至る。

始良社長が関わっている景倶楽部富山では、これまでに地元の大広田小学校の「花の道づくり」、親子での田植え体験（児童クラブ主催）などへの協力や、富山市が試行している「エコボランティアサポート事業」などに参加、積極的に地域との共生や環境活動に関わってきた。メンバーの業種は、内装、ガラス、土建、家具製造、理容、雑貨、書家など多岐にわたる。

